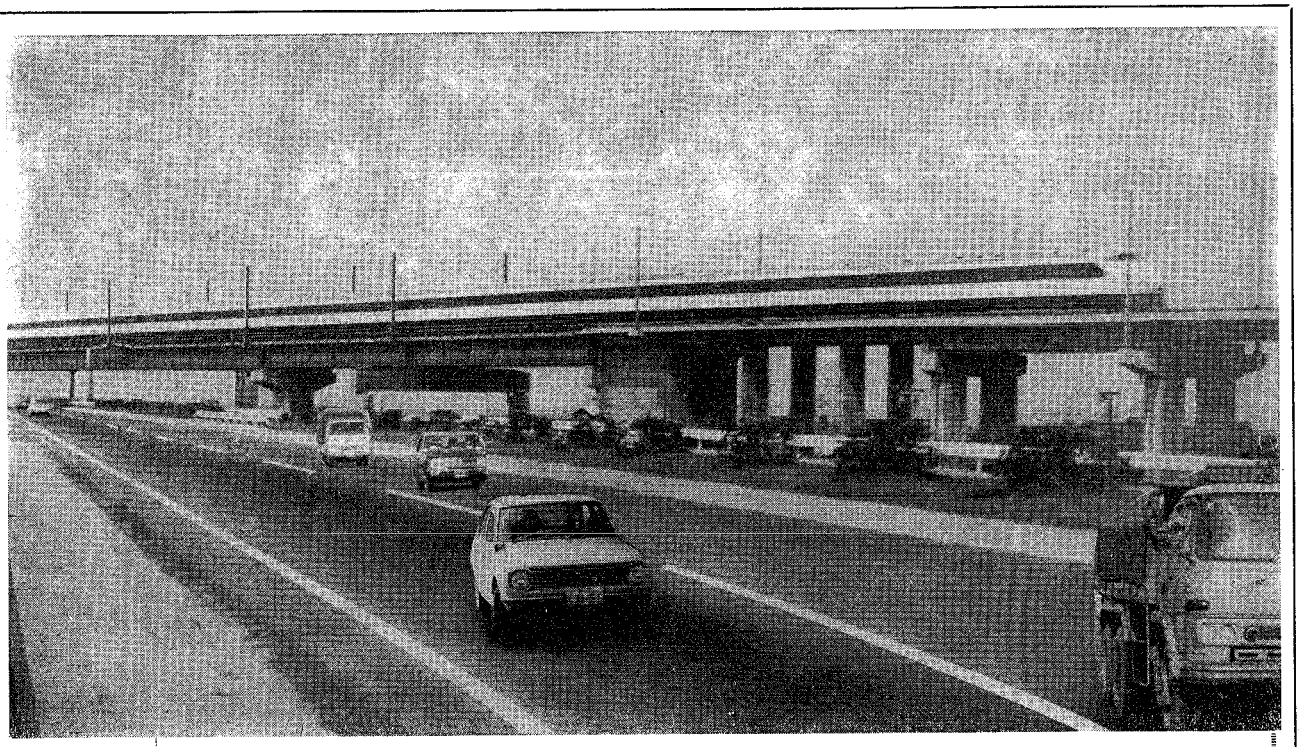
市報
にいがた
昭和47年1月5日発行
No. 322

市の人口

		前月比
人口	391,287	(＋580)
男	191,122	(＋270)
女	200,165	(＋310)
世帯数	116,899	(＋273)

46. 11. 30 現在

毎月3回5・15・25日発行（昭和30年9月20日第三種郵便物認可）
定価 1部3円
発行所 新潟市役所
新潟市西堀通6番町866
電話 代表(28)1000
編集人 服部一雄
印刷所 (株)新潟日報事業社



新潟と東京を直結する上越新幹線。こんな光景（想像）が見られる日も間近い。

飛躍する日本海の拠点新潟

市民の皆さん、あけましておめでとうございます。

ことしも元気いっぱい、皆さんに新年のメッセージをお贈り出来ますことを、大変光栄に存しております。

新潟市は、きびしい内外情勢の中にあって、たくましく前進を続けておりますが、ことしは新潟市が置かれている立場を、じっくり見なおす時期ではないかと思います。

それは、新潟が日本の中でどのように位置づけられているか、また新潟に寄せられる期待感はどのようなものかを、認識することであります。

たとえば、新潟と首都圏を結ぶ経済路線といわれる上越新幹線の着工は、流通機構の体制づくりや、高速ネットワークによる拠点交流の必要性から、時代の要求として生まれてきたわけであります。つまり、日本列島の開発プランの中に、新潟は大切な拠点として位置づけられているわけです。

ことしの秋開通する新潟ーハバロフスクの局地間航空路にしても、これは、ひとり新潟だけの問題ではなく、日本とソ連、ひいては、ヨーロッパへの道につながる重要な問題であります。

このように、新潟に寄せられる期待感は、驚くほど大きいわけであり、従いまして、これからの新潟市は、これらを受け入れた道路計画、港湾施設、あるいは公害、交通対策を考えてゆかなければなりません。そのためには、これまで以上に市民参加の市政を推し進める必要があると同時に、新潟市民としての誇りが必要だと思います。

また、市民の安全と健康を守るための人間優先の市政は当然のことであり、来年開院を目指した市立総合病院の本格的な建設工事をはじめ、子供や老人を大切にする福祉行政につきましては、より一層力を注いでまいりたいと思います。

市民の皆さんが、健康で明るく暮らせるまちづくりを目標に、ことしも、専心、努力を続けてまいりますので、皆さんの格段のご協力を心からお願い申しあげます。

昭和四十七年元旦

新潟市長
[illegible]

あけましておめでとうございます

ほほえみがある
明るいあしたがある
ことしも〈ダイ四〉へ

きめのこまかい計画が、ますます大切になる今年、暮らしのなかで、〈ダイ四〉を上手にお役立てください。みなさまのご家庭に、明るい笑いと、清新な気分がみなぎる年であります様〈ダイ四〉は心から願っております。

すぐそばにある
第四銀行

東京 水村由香子

でんわコーナー

あけまして
おめでとうございます
——発展する新潟市とともにあゆむ電信電話——

楽しい毎日を
ビンイスの能率化を
プッシュホン
本年も格別のご愛顧をいただきますようお願いいたします。

新潟電話局